

追悼  
日本の至宝 百歳監督

# 新藤兼人映画祭

In 日比谷  
上映スケジュール

| 8月6日(月)                       | 8月7日(火)                                       | 8月8日(水)                                                                        |
|-------------------------------|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| ①10:10開場 10:30開演<br>「一枚のハガキ」  | ⑤10:10開場 10:30開演<br>「一枚のハガキ」                  | ⑧10:10開場 10:30開演<br>「一枚のハガキ」                                                   |
| ②13:40開場 14:00開演<br>「一枚のハガキ」※ | ⑥13:40開場 14:00開演<br>「ある映画監督の生涯<br>～溝口健二の記録～」※ | ⑨13:40開場 14:00開演<br>「一枚のハガキ」※                                                  |
| ③16:40開場 17:00開演<br>「原爆の子」※   | ⑦18:40開場 19:00開演<br>「午後の遺言状」※                 | ⑩16:40開場 17:00開演<br>「原爆の子」※                                                    |
| ④18:45開場 19:00開演<br>「裸の島」※    |                                               | ⑪18:45開場 19:00開演<br>60分特別公開授業 講師:佐藤忠男さん<br>「新藤兼人と映画」<br>終了後、20:30より<br>「裸の島」上映 |

※特別解説付:共同通信社編集委員 立花珠樹さん(「新藤兼人 私の十本」著者) 司会:御手洗志帆

## <料金>

①～⑩の映画上映は、事前予約1000円 当日申込み1500円  
(ただし、⑪の特別授業&映画上映は事前予約1500円 当日申込み2000円)

## <予約方法>

上記の上映スケジュール(全自由席)から鑑賞希望日・時間(番号①～⑪)をお選び頂き、  
氏名・チケット枚数・お電話番号を下記のいずれかまでご連絡ください。

オフィスパンタレイ メール:officepantarei@yahoo.co.jp

電話:03-6914-3675

総合問い合わせ:070-5055-3279

(代表:御手洗)

千代田区立日比谷図書文化館

メール:college@hibiyal.jp

電話:03-3502-3340

1階受付(チケットと引き換え)

でも承ります。



追悼

日本の至宝 百歳映画監督

# 新藤兼人映画祭

In 日比谷

2012年8月6日(月)、7日(火)、8日(水)

今日はお祭りですが  
あなたがいらしてやるので  
何の風情もありません  
「一枚のハガキ」より

※ 本年、8月6日は、新藤監督の遺作となった  
「一枚のハガキ」公開から1周年かつ、  
新藤監督が創設した独立プロ 近代映画協会が  
初めて制作した「原爆の子」公開から60周年である。  
1945年8月6日午前8時15分、  
広島に原爆が投下された。  
本年5月29日にお亡くなりになった広島出身の  
新藤兼人監督が想いを込めたヒロシマをメインテーマに  
追悼映画祭を開催する。

主催

千代田区立  
日比谷図書文化館

日本文化意匠を発信!  
オフィス パンタレイ

協力 近代映画協会

絵:御手洗 志帆



2012. 8. 6～

一追悼一

日本の至宝

百歳映画監督

新藤兼人映画祭

開催への想い



映画監督に対する最高の追悼は、映画を一人でも多くの人に観て頂くことだと思う。私は、新藤監督が映画作品に込めたメッセージを改めて感じ取りながら、一人でも多くの方に監督作品に触れて頂くため尽くしてゆきたい。

祝百歳映画祭の企画を急遽変更し、この度、追悼の意と新藤監督に愛を込めて、新藤監督の映画は永遠に生きるということ実証させていきたい。

オフィスパンタレイ

代表 御手洗志帆



## 新藤監督映画は永遠に生き続ける

私は高校卒業まで17年間、広島で育った。広島は私の故郷だとおっしゃる新藤兼人監督同様、私の故郷もまた広島である。新藤監督は、原爆投下前の美しい広島に育った。そして自身の目で焼野原となった広島を見た。街も人も自然もすべて焼けた広島に立ち、何を思ったのだろうか。

その心は、新藤監督の映画を通して幾分か知ることが出来ると思う。

ボタンを押す、そのあまりに簡易な方法で落とされた原子爆弾が、約20万人の命を奪った。「原爆の子」を観て感じるのは数値や惨状ではない。原爆が一人ひとりの生活、家庭を瞬時に奪い、忽ち死に追いやるたことである。悔やんでも憎んでも、死んだ人間は帰ってこない、全身ケロイドを負った少女の体も、放射能に蝕まれ子を産めなくなった体ももう元通りにならず帰ってくることはない。

私が新藤監督映画に心を寄せているのは、死んで戻ってこない特定の「あなた」に対して、映画の中で残し魂を注ぐことによって追悼をしているからだ。消えていく者、風化してゆく事に対して、

「私はあなたを忘れていません」と必死に流れゆく時代に反逆しているその精神に敬意を称する。

長い年月遠くを歩いていながら映画に尽くしてきた新藤監督の作品の全てに、内側から突き放たれる人間の根源・生きる意志を感じ興味を抱いた。去年、上映された「一枚のハガキ」を見てなるほどと感じた。

ああ、新藤監督は一人の命の重みを体で感じ知っている監督なんだと分かったのだ。

94人の命だけでなく身近で亡くなったたくさんの尊い命を背負って、皆の分まで生きて、絶対に意思を曲げることなく描くべきことを描き続けてきた日本を代表する監督だと私は思っており、新藤監督が日本映画界にいらつしやるのが誇りであった。多くのの人に新藤監督を知ってもらいたい！映画を見て欲しい！そんな抑えられない思いが映画祭開催を促した。資金も経験もない私でも、やれるだけのことはやってみよう！そうだ、映画祭を通して、百歳を迎えられた新藤監督に対してファンの祝福の言葉も集めて冊子にし、新藤監督にプレゼントしよう！と思っていた矢先、

5月29日に新藤監督が亡くなったことを知った。悲しみと同時に大きな不安が押し寄せた。

新藤監督がこの世にいないと思うだけでもうただひたすら悲しかった。

6月3日の告別式に参加した。林光さんの作曲された「裸の島」の音楽が響き渡っていた。葬儀場の真ん中には、裸の島をイメージしたお花の島が涙で滲む目の前に創られていた。

## 上映映画



公開60周年記念！  
「原爆の子」(1952)  
第10回英国アカデミー賞国際平和賞受賞



「ある映画監督の生涯」(1975)  
キネマ旬報1位



「午後の遺言状」(1995)  
キネマ旬報1位



公開1周年！「一枚のハガキ」  
(2011)  
キネマ旬報1位

8月8日19:00～ 特別公開授業(60分)

## 「新藤兼人と映画」

講師：佐藤忠男さん(映画評論家、日本映画大学校長)



1930年、新潟県生まれ。日本を代表する映画評論家であり、アジア映画研究の先駆者。映画を中心に演劇、文学、大衆文化、教育などの広い分野に及ぶ評論活動を半世紀以上続け、最初の著書「日本の映画」(三一書房・1956・キネマ旬報賞受賞)以後、100冊を超える著書を発表している。芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、勲四等旭日小綬章、韓国王冠文化勲章、フランス芸術文化勲章シュバリエ章受章、毎日出版文化賞、国際交流基金賞、神奈川文化賞など多数受賞。

## 特別映画解説！

共同通信社編集委員 立花珠樹さん



### プロフィール

1949年、北九州市生まれ。一橋大卒。74年共同通信社に入社。ニューヨーク支局などを経て、90年代から映画を担当する。著書に、「岩下志麻という人生」「新藤兼人 私の十本」(いずれも共同通信社)、『「あのころ」の日本映画がみたい!』(彩流社)など。

新藤兼人  
私の十本

開催場所  
千代田区立日比谷図書文化館  
地下1階  
コンベンションホール



## 4F 連動企画写真展

「1945、ヒロシマから現代の子どもたちへ」

特別写真提供 広島平和記念資料館



## <写真展内容>

広島原爆被害写真展示  
新藤兼人監督作品「原爆の子」  
スチール写真展示など

開催期間：8月1日(水)～8月9日(木)

場所：日比谷図書文化館4階小ホール

入場無料